

# R6年度 美術館評価調書

## A 優れた作品の収集と適切な保管

近代美術館

### 【基本的運営方針】

5つの収集方針に基づいて、優れた作品を計画的に収集し、系統的で個性的なコレクションを形成します。併せて関連資料の整備を進めます。また、IPM(総合的有害生物管理)の進展や当館施設設備の特色と老朽化をふまえながら、保存環境を整備するとともに、作品の修復を計画的に行うなどしながら、作品を適切に保管します。

### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目          | 事業実施計画 [PLAN]   | 事業実施状況 [DO]   |
|---------------|---|---|
| 優れたコレクションの形成  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●美術に関する調査研究と収集方針に基づいて、美術史の視点からコレクションの欠けた部分や手薄な部分を洗い出し、それらをリストアップした収集計画を更新する。</li> <li>●リストアップされた作品の入手可能性に関する情報を収集し、購入や受贈により計画を実現する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●R6年度収集作家作品候補一覧を集約し、学芸会議へ提出した。本リストを今後、加除しながら収集計画の基礎資料とする。</li> <li>●第四期北海道立美術館作品収蔵計画の中間評価を行い、過去5年間の収集を振り返るとともに今後の課題を明確化した。</li> <li>●購入では、収蔵作品選定評価協議会での承認を得て、日本現代の「ガラス工芸」3点を収蔵することができた。</li> <li>●受贈では、美術作品選定会議での承認を得て、収集方針のうち「北海道の美術」に含まれる油彩5点、彫刻3点、「現代の美術」に含まれる工芸2点を収蔵した。</li> </ul>   |
| 所蔵作品の適切な保管    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●IPM(総合的有害生物管理)の進展に学びながら、ひと月に1回程度の収蔵庫内清掃や虫トラップの設置・観察・分析等を通して、適切な展示・保存環境を保持する。</li> <li>●保存と活用のために修復が必要な作品のリストを更新し、計画的に修復を進める。</li> <li>●増加する図書や資料類の収納スペースを確保するため、図書や映像資料、過去の展覧会資料等の整理とデジタル化に努める。</li> <li>●所蔵品データベースの確認作業を行い、データの精度を高める。</li> <li>●二次資料の幅広い活用と公開を目的とするアーカイブ(記録・資料保管システム)のあり方について研究する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●IPMを適切に実施するため、通年で捕虫・監視を行うとともに、文化財害虫を減らすため収蔵庫等を毎月1回清掃した。その結果、害虫の早期発見と対応策の検討が可能となり、前年度よりも年間の捕虫数はわずかに減少した。</li> <li>●修復では、野外彫刻2点、ガラス作品1点の修復を実施した。</li> <li>●図書資料増加に伴う収納場所の確保のため、重複資料を処分した。</li> <li>●R6年度までの所蔵品データベースの登録を完了した。</li> <li>●紙資料及びビデオテープのデジタル化に着手し、すすめている。R5年度に収蔵した掛川源一郎作品については約24万枚のネガ及びポジフィルムから約1万2千枚のデジタル化が終了した。</li> </ul> |
| コレクションの効果的な活用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●R5年度に新たに収蔵した作品を「新収蔵品展」において公開するほか、「この1点を見てほしい。」を開催し、作品の魅力を深く掘り下げた研究の成果を紹介する。</li> <li>●両方の展示室を使って開催する「星の瞬間」展では、学芸員のコレクション研究と現代美術作家の作品により、北海道美術の歴史を再検証する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●R5年度に新たに収蔵した作品を「新収蔵品展」で紹介したほか、「この1点を見てほしい。」を2回実施し、コレクションについての調査の成果を展示した。</li> <li>●「星の瞬間」展では、学芸員10名とCAI現代美術研究所/CAI03及び現代美術作家9名が計41点の「北海道の美術」作品をピックアップし、学芸員は研究成果を、作家は当館の「北海道の美術」作品と自作を関連づけて展示することで新たな魅力を発信した。</li> <li>●「芸術週間」(11/1~7)中、初めての試みとしてカフェスペースに当館所蔵のガラス作品2点をケース内展示した。</li> </ul>   |

### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目          | 評価指標                        | 目標値の設定 [PLAN] |        |  | 評価 [CHECK] |          |       |       |  | 今後の対応方向 [ACTION] |  |
|---------------|-----------------------------|---------------|--------|--|------------|----------|-------|-------|--|------------------|--|
|               |                             | 前年度実績         | 目標値(a) |  | 実績値(b)     | 達成率(b/a) | 指標の判定 | 項目評価  |  |                  | 総合評価   |
|               |                             |               | 設定の考え方 |  |            |          |       | 成果・課題 |  |                  |  |
| 優れたコレクションの形成  | 収集方針に基づく収集活動 [定性]           | -             | -      | -  | -          | -        | ①     | b     | 【成果】<br>●購入及び寄贈により現代日本の「ガラス工芸」と戦後の「北海道の美術」コレクションを充実させることが出来た。<br>【課題】<br>●収集方針に掲げながらも、新たな収蔵が進まない分野についてコレクションの充実を図る必要がある。なお、作品価格高騰のため、「エコール・ド・パリ」については、収集が叶わない状況にある。  | B                | 【優れたコレクションの形成】<br>●収集計画に基づき、今後も広く情報収集を行い、コレクションの充実を目指す。<br><br>【所蔵作品の適切な保管】<br>●データベースの精度を高めるために点検し、誤りを適宜修正する。また、適切な保存環境のもとで所蔵作品を管理するとともに、必要に応じて修復を行う。<br><br>【コレクションの効果的な活用】<br>●調査研究等を深めることでコレクションの魅力を掘り起こし、展覧会や事業等において紹介する。 |
| 所蔵作品の適切な保管    | 所蔵品データベースの整備率               | 100%          | 100.0% | R5年度末までに収蔵した全作品のうち、R6年度末までに18システムに情報登録を予定する作品の割合 | 100.0%     | 100.0%   | ①     | a     | 【成果】<br>●新収蔵作品を含めデータの登録が完了した。また、過去データの誤りを点検し、適宜修正した。保存環境の維持と収蔵作品の計画的な修復を行った。<br>【課題】<br>●過去の作品登録データの誤りを引き続き修正するとともに更新を適宜反映していく必要がある。<br>●二次資料のアーカイブ化に関しては、業者委託も含めて検討し、促進を図る必要がある。<br>●作品の経年劣化を踏まえ、継続的に適切な修復を実施していく必要がある。 |                  |  |
|               | 適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性] | -             | -      | -  | -          | -        | ①     | a     | 【成果】<br>●展示、教育普及事業、情報発信等、美術館活動の多くの場面に活用することができた。<br>【課題】<br>●コレクションのさらなる活用について引き続き様々な方法を検討する必要がある。   |                  |  |
| コレクションの効果的な活用 | コレクションの活用の状況 [定性]           | -             | -      | -  | -          | -        | ①     | b     | 【成果】<br>●展示、教育普及事業、情報発信等、美術館活動の多くの場面に活用することができた。<br>【課題】<br>●コレクションのさらなる活用について引き続き様々な方法を検討する必要がある。   |                  |  |

## R6年度 美術館評価調書

### B 多彩で特色ある展示活動の充実

近代美術館

#### 【基本的運営方針】

収蔵作品を紹介する「近美コレクション」展を、当館の個性を強く発信するとともに、コレクションをすべての人々に向かって開く最も重要な機会と位置づけ、コレクションの魅力や調査研究の進展を伝えます。また、「特別展」では、様々な鑑賞のニーズに応えるとともに、人間と文化の多様性について理解を深める機会となるように、幅広い時代と分野のアートを紹介し、併せて、個性の異なる誰もがアートに親しむことができる展示について研究を進めます。

#### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目             | 事業実施計画 [PLAN]  | 事業実施状況 [DO]   |
|------------------|--|---|
| 多様なニーズに応える展示会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●近美コレクションについては、エコール・ド・パリの象徴的な画家バスキンを検証する「越境者バスキン」、アートギャラリー北海道事業として苫小牧市美術館の所蔵品を紹介する「港の今昔」等を開催するほか、子どもが大人を連れて訪れたいような美術館を目指し、新たな企画として「ウイズ・キッズ'24」を開催する。</li> <li>●国内外の優れた作品を紹介する特別展については、国宝《鳥獣戯画》ほかを紹介する「京都 高山寺展」をはじめ、皇居三の丸尚蔵館の収蔵品から、北海道ゆかりの作品を中心にピックアップした「皇居三の丸尚蔵館展 皇室の至宝」、北海道の美術を学芸員と現代アーティストによって読み直す「星の瞬間」、北海道書道連盟の70周年展(貸館)等、近世の日本画や北海道の美術などの幅広い時代・地域・分野に渡る5つの展示会を開催する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●近美コレクションⅠ期「越境者バスキン」においてバスキンを中心としたエコール・ド・パリの画家たちを紹介。Ⅱ期「浮世絵のヒロインたち」では、浮世絵美人画を3期に分けて計250点を展示した。アートギャラリー北海道事業の展示会では、苫小牧市美術館の所蔵絵画や資料によって、港を中心に発展した街の姿と歴史を紹介した。「ウイズ・キッズ'24」(Ⅱ期、Ⅲ期で実施)では、作品の形と素材に注目し、平易な解説により、子どもが美術に親しみやすい展示を行った。</li> <li>●特別展では、国宝《鳥獣戯画》等を展示した「京都 高山寺展」、国宝「動植雑絵」を含む皇室に継承された名品と北海道及び皇室をつなぐ優品を一室に紹介した「三の丸尚蔵館展」、学芸員とCAI現代美術研究所/GA103及び現代美術作家が当館コレクションを活用しながら北海道美術を再考した「星の瞬間」展等、5つの展示会を開催した。</li> </ul> |
| 観覧者拡充のための工夫      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●チラシやポスター等の紙媒体のほか、道立美術館ポータルサイト、ホームページ、X(旧ツイッター)、フェイスブックを通じて、展示会情報や見どころを細やかに発信する。</li> <li>●当館収蔵作品のなかでも人気の高い片岡球子の「面構」シリーズ、岩橋英遠の《道産子追憶之巻》を、それぞれⅠ期とⅡ期のコレクション展において展示する。</li> <li>●障がい者、子どもを対象とした展示について研究を深める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●チラシやポスター等のほか、ホームページ、X(旧ツイッター)、フェイスブックを通じ、展示会情報や見どころを細やかに発信した。</li> <li>●片岡球子「面構」、岩橋英遠《道産子追憶之巻》はコレクション展のⅠ、Ⅱ期及び、「星の瞬間」展で展示し、鑑賞機会を充実させた。</li> <li>●近美コレクションでは、全ての展示において作品鑑賞のためのワークシートを展示室内に配置。計16種を提供し、うち4種はR6年度新規作成した。</li> <li>●「ウイズ・キッズ'24」では、北海道造形教育連盟に所属する教員より助言を得て、展示物の目録を子供の高さに近くするほか、解説文は短めにする等の工夫をした。Ⅲ期では、手で触れて親しむ「作品にさわってみよう!」コーナーを設けた。</li> </ul>   |
| 館外における鑑賞機会の提供    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●道内外の美術館からの作品借用希望に協力し、当館来館者以外にもコレクションの鑑賞機会を提供する。主な貸出予定は、道立旭川美術館「オブ・アート展」に約120点、道立釧路芸術館「自然への眼差し」展に5点、三岸好太郎美術館「モダニストの蝶」展に3点、等。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●道立旭川美術館「オブ・アート展」に56点、道立三岸好太郎美術館「モダニストの蝶」展に3点、「わがこころの街—好太郎と画家たちの札幌」展に28点、道立釧路芸術館「自然へのまなざし」展に5点、木田金次郎美術館「木田金次郎ストーリーズ」展に16点の貸出しを行った。このほか知事公館、知事室に5点を貸出した。</li> </ul>   |

#### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目             | 評価指標                       | 目標値の設定 [PLAN]             |                           |                                     |                           |                          | 評価 [CHECK] |       |   |      | 今後の対応方向 [ACTION]  |
|------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------------------|---------------------------|--------------------------|------------|-------|---|------|---|
|                  |                            | 前年度実績                     | 目標値(a)                    |                                     | 実績値(b)                    | 達成率(b/a)                 | 指標の判定      | 項目評価  |   | 総合評価 |   |
|                  |                            |                           | 設定の考え方                    |                                     |                           |                          |            | 成果・課題 |   |      |   |
| 多様なニーズに応える展示会の開催 | 展示会の観覧者数 (※展示会毎の内訳は下表のとおり) | (常) 10,143<br>(特) 121,402 | (常) 31,152<br>(特) 137,662 | (常)過去5年間の上位3年間の平均(特)主催者申出又は予算要求上の人数 | (常) 39,738<br>(特) 152,128 | (常) 127.6%<br>(特) 110.5% | ①          | b     | 【成果】<br>●特別展「高山寺展」「三の丸尚蔵館展」、コレクション展「浮世絵のヒロインたち」を中心に、多数の観覧者を迎えることができた。<br>【課題】<br>●国宝を展示し多数の入館者があつた「高山寺」展では、混雑状況に関する情報提供への不満の声が多くあり、今後、来館予定者が事前に情報取得しやすいように配慮していく必要がある。  | B    | 【多様なニーズに応える展示会の開催】<br>●海外の美術をはじめ、多彩な地域の美術の紹介に努める。また、社会包摂を意識し、多様な鑑賞者が楽しめる展示会企画を探る。<br><br>【観覧者拡充のための工夫】<br>●「ウイズ・キッズ」展を継続し、児童生徒の来館拡充を図る。また、SNS等を活用した広報を行う。<br><br>【館外における鑑賞機会の提供】<br>●雑誌やテレビ、ウェブ広報などの作品紹介を通じて鑑賞機会拡充に努める。 |
|                  | 観覧者の満足度                    | (常) 91.4%<br>(特) 85.9%    | (常) 91.4%<br>(特) 93.3%    | 来館者アンケートによる過去5年間の最高値                | (常) 91.1%<br>(特) 84.9%    | (常) 99.7%<br>(特) 98.8%   | ②          |       |   |      |   |
| 観覧者拡充のための工夫      | 観覧者に占めるリピーターの割合            | (常) 64.0%<br>(特) 73.8%    | (常) 71.8%<br>(特) 73.9%    | 過去5年間の最高値                           | (常) 80.7%<br>(特) 85.5%    | (常) 112.4%<br>(特) 115.7% | ①          | c     | 【成果】<br>●魅力ある展示会企画と幅広い広報により、特別展・コレクション展ともにリピーター率で目標値を大きく上回った。コレクション展で「ウイズ・キッズ'24」展を2回行う等、児童生徒の来館を促し、年間を通じてコレクション展ではほぼ1割が児童生徒になっている。<br>【課題】<br>●日本美術及び現代美術を取り上げた特別展は、児童生徒の来館率が他より低く6%程度であり、この世代への広報や周知方法を検討していく必要がある。 |      |   |
|                  | 観覧者に占める児童生徒の割合             | (常) 13.1%<br>(特) 7.7%     | (常) 10.0%<br>(特) 10.0%    | 各展示会の児童生徒の見込割合                      | (常) 9.8%<br>(特) 5.6%      | (常) 97.6%<br>(特) 55.5%   | ④          |       |   |      |   |
|                  | 展示の企画構成やPR等の工夫 [定性]        | -                         | -                         | -                                   | -                         | -                        | ①          |       |   |      |   |
| 館外における鑑賞機会の提供    | 館外における展示活動の状況 [定性]         | -                         | -                         | -                                   | -                         | -                        | ①          | b     | 【成果】<br>●館外への作品貸出や、積極的なウェブ上での作品紹介等により、鑑賞機会を提供することができた。<br>【課題】<br>●輸送費の高騰により、道外からの貸出依頼が減少傾向にある。(R3年度3件、R4年度1件、R5年度1件、R6年度0件)  |      |   |

#### 【展示会開催状況】

| 区分  | 展示会名                      | 計 画                    |            |                  |                | 実 績        |            |                  |                | 特記事項  |  |
|-----|---------------------------|------------------------|------------|------------------|----------------|------------|------------|------------------|----------------|-------|--|
|     |                           | 会期                     | 開催日数       | 観覧者見込数(うち児童生徒)   | 1日当たり観覧者数      | 会期         | 開催日数       | 観覧者数(うち児童生徒)     | 1日当たり観覧者数      |       |  |
| 常設展 | 越境者バスキン/現代ガラスのオトマトベ ほか    | 4/1~6/16               | 62         | 10,974 (1,097)   | 177            | 4/1~6/16   | 62         | 7,752 (1,177)    | 125            |       |  |
|     | 浮世絵のヒロインたち/ウイズ・キッズ'24 ほか  | 7/9~9/26               | 63         | 11,151 (1,115)   | 177            | 7/9~9/26   | 60         | 24,815 (2,019)   | 413            |       |  |
|     | ウイズ・キッズ'24/岩田藤七の軌跡 ほか     | 10/12~12/8             | 51         | 9,027 (903)      | 177            | 10/12~12/8 | 51         | 6,725 (646)      | 131            |       |  |
|     | リーブル・ダルティスト/ウイズ・キッズ'25 ほか | 3/29~3/30              | 2          | -                | -              | 3/29~3/30  | 2          | 446 (39)         | 223            |       |  |
|     | 常設展計                      | -                      | 176        | 31,152 (3,115)   | 177            | -          | 175        | 39,738 (3,881)   | 227            |       |  |
| 特別展 | 館単独主催展                    | 星の瞬間/変貌する20世紀ヨーロッパ・ガラス | 1/5~3/16   | 61               | 8,761 (876)    | 144        | 1/5~3/16   | 61               | 8,896 (481)    | 145   |  |
|     | 実行委員会展                    | 京都 高山寺展                | 7/9~9/1    | 47               | 56,400 (5,640) | 1,200      | 7/9~9/1    | 48               | 82,981 (5,367) | 1,728 |  |
|     |                           | 皇居三の丸尚蔵館展              | 9/21~10/27 | 32               | 35,501 (3,550) | 1,109      | 9/21~10/27 | 32               | 36,872 (748)   | 1,152 |  |
|     | 貸館展                       | 「琳派×アニメ」展              | 4/20~6/2   | 38               | 35,000 (3,500) | 921        | 4/20~6/2   | 38               | 20,781 (1,802) | 546   |  |
|     |                           | 北海道書道連盟創立70周年記念展       | 12/5~12/15 | 10               | 2,000 (200)    | 200        | 12/5~12/15 | 10               | 2,598 (49)     | 259   |  |
|     | 特別展計                      | -                      | 188        | 137,662 (13,766) | 732.2          | -          | 189        | 152,128 (8,447)  | 804            |       |  |
|     | 合 計                       | -                      | 263        | 168,814 (16,881) | 641            | -          | 263        | 191,866 (12,328) | 729            |       |  |

※ 計の開催日数は、展示会の開催実日数

## R6年度 美術館評価調書

### C 学習の場と情報提供の充実

近代美術館

#### 【基本的運営方針】

コレクション、展示、調査研究に結びつけながら、個人の成長・年齢や個性に応じたラーニング・プログラムを企画し、実施します。特に鑑賞学習支援ツールとオンラインについて、効果的な活用を進めます。また、コレクションのデジタル・データ化や、ホームページとSNSの活用によって、発信する情報の魅力アップに取り組みます。

#### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目      | 事業実施計画 [PLAN]  | 事業実施状況 [DO]   |
|-----------|--|---|
| 教育普及活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●作品鑑賞の補助ツールとしてスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」を利用した音声ガイドのコンテンツを増やす。特に、当館前庭と知事公館庭園の野外彫刻のガイドプログラムを充実させることで、当館・三岸好太郎美術館のあるエリア帯の魅力向上を図る。</li> <li>●近美コレクションの内容と連動したワークショップを実施して、鑑賞と制作が一体化した芸術体験の機会を提供する。</li> <li>●「ウィズ・キッズ'24」の関連事業として、子どもを対象とするギャラリー・ツアーを実施する。</li> <li>●幅広い層に美術館の利用を促すため、外部研究者による特別展に関連した講演会、美術館の雰囲気を活かしたホールでのコンサート等を実施する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●R5年度からスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」を用いて、近代美術館、三岸好太郎美術館、知事公館内外の作品8点を、画像・テキスト・音声による作品電子ガイドを制作し、新たに公開。コンテンツ数を延べ17件に増やした。音声ガイドは昨年に続き、北海道札幌北陵高等学校と連携し、同校放送局の生徒がナレーションを行った。</li> <li>●コレクション展では、小学生と保護者を対象に鑑賞と制作を行うワークショップを開催したほか、「ウィズ・キッズ'24」では、作品を見たり、触れたりして能動的な鑑賞体験を提供するツアーやワークショップ等のラーニング・プログラムを計5回実施し、併せて138名の参加者があった。</li> <li>●「高山寺展」「三の丸尚蔵館展」等3つの特別展で外部研究者による講演会等を計7回、「星の瞬間」展ではCAI現代美術研究所/GA103及び連携した北海道の現代美術作家9名によるトークを2回にわたって開催した。</li> <li>●道銀文化財団との連携によるミュージアム・コンサートを2回実施した。</li> </ul> |
| 情報提供の充実   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●HP及びSNSを通じ、迅速かつ積極的に、展覧会や関連事業の情報を発信する。</li> <li>●展覧会紹介動画「北海道リモート・ミュージアム」の新規コンテンツを制作し、ネット上で公開する。</li> <li>●ARSコーナーの魅力向上のため、図書や図録を整理し利便性の向上を図る。上映中の「北海道リモート・ミュージアム」のアーカイブ動画については、新しいコンテンツを編集次第、古いコンテンツと入れ替えて更新する。</li> <li>●コレクションのデータベースを着実に整備し、所蔵作品の基本情報を公開する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●SNS（フェイスブック、X）により、展覧会に関する投稿を延べ385回発信し、利用者への情報提供に努めた。</li> <li>●「北海道リモート・ミュージアム」は2件のコンテンツを新たに作成、配信するとともに、ARSコーナー上映モニターに追加し、利用者への情報提供に努めた。</li> <li>●コレクションのデータベースは、調査で判明した情報をデータ変更調書に基づいて随時、更新し、データ整備を図った。</li> </ul>  |

#### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目           | 評価指標                   | 目標値の設定 [PLAN] |          |  | 評価 [CHECK] |          |       |      | 今後の対応方向 [ACTION]  |      |  |
|----------------|------------------------|---------------|----------|--|------------|----------|-------|------|---|------|--|
|                |                        | 前年度実績         | 目標値(a)   |  | 実績値(b)     | 達成率(b/a) | 指標の判定 | 項目評価 |   | 総合評価 |  |
|                |                        |               | 設定の考え方   |  |            |          |       |      |   |      |  |
| 教育普及活動の充実      | 教育普及プログラムの実施件数         | 60件           | 65件      | 特別展開連25件+近コレ関連34件+その他6件                  | 53件        | 81.5%    | ③     | b    | 【成果】<br>●講演会をはじめ、学芸員による解説や外部講師によるワークショップ等、様々な教育普及事業を実施した。また、今年度から新たにコレクション展で子ども向け教育普及展覧会「ウィズ・キッズ」を開催した。<br>【課題】<br>●ラーニング・プログラムの企画に際しては、より効果的の事業が実施できるよう対象・参加人数を想定の上、内容を検討することで、参加者数だけでなく質的な向上にもつなげる必要がある。  | C    | 【教育普及活動の充実】<br>●教育普及事業は、実施内容と適切な参加人数、募集方法等のバランスを考慮して計画をたてる。同時にワークシートのように来館者が誰でも利用できるプログラムも充実させていく。   |
|                | 教育普及プログラムの参加者数         | 2,349人        | 2,660人   | 特別展開連1件あたり140人+近コレ関連1件あたり10人+その他1件あたり20人 | 2,656人     | 99.8%    | ②     |      |   |      |  |
|                | 教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性] | -             | -        | -  | -          | -        | ①     |      |   |      |  |
| 情報提供の充実        | ARS、図書コーナーの利用件数        | 3,521人        | 7,627人   | H30、R1、R4の1日あたりの平均利用者数29.0人×開館日数263日     | 5,689人     | 74.6%    | ④     | d    | 【成果】<br>●SNSへの注力により、展覧会に関する情報発信を充実させた。<br><br>●ウェブによる情報収集を重視する層が増えている状況をふまえ、従来の紙媒体による周知方法を見直しHP中心に転換することとした。SNSの投稿数は目標値を大きく上回った。<br>【課題】<br>●HP・SNSを中心とした情報発信に転換する一方で、紙媒体主体で情報収集を行っている層への配慮（アクセス方法の問合せに対する丁寧な説明、ウェブの利用が困難な方への情報提供等）も十分に行う必要がある。<br><br>●ARS、図書コーナーの魅力向上と利用促進に向けて、配架図書の冊数・内容の見直しや映像コーナーのプログラムを利用者自身で選択できるようにする等、今後改善すべき点がある。 | C    | 【情報提供の充実】<br>●HP・SNSでの情報発信を中心にして、ウェブでの情報収集が困難な層への情報提供が滞ることがないように、来館者アンケートの意見等を踏まえて対応する。<br><br>●ARS、図書コーナーについては、映像コーナーのコンテンツを更新、配架図書を見直し、利用しやすい配架や内容を検討する。 |
|                | 利用しやすい図書・資料コーナーの整備     | -             | -        | -  | -          | -        | ②     |      |   |      |  |
|                | HPアクセス件数               | 571,976件      | 977,098件 | HPリニューアル後、年間通じて開館した令和4(2022)年度の値         | 700,795件   | 71.7%    | ④     |      |   |      |  |
|                | SNSの投稿数                | 273回          | 226回     | フェイスブック、X(旧ツイッター)とも週2回+AGH月間10回          | 385回       | 170.4%   | ①     |      |   |      |  |
|                | 北海道リモート・ミュージアムの公開件数    | 3件            | 2件       | 近美コレクション1期および2期にて新規コンテンツを制作              | 2件         | 100.0%   | ①     |      |   |      |  |
| 情報発信の工夫改善 [定性] | -                      | -             | -        | -  | -          | ①        |       |      |   |      |  |

## R6年度 美術館評価調書

### D 活動の基礎となる調査・研究の推進

近代美術館

#### 【基本的運営方針】

美術及び美術館に関する調査研究を、これまでの蓄積と新たな知見の上に立って推進するとともに、学芸員の資質向上を目的とした研修を行うことにより、活動全般の信頼性や企画における創造性を向上させます。また、調査研究の成果を、様々な形で発信し社会に還元します。併せて、リニューアルに向けた活動、施設、運営等に関する調査研究を進めます。

#### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目     | 事業実施計画 [PLAN]  | 事業実施状況 [DO]   |
|----------|--|---|
| 調査・研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度の近美コレクション展、特別展のほか、来年度以降開催が検討されている展覧会、特に自主企画展について、また作品収集について、調査・研究を着実に進める。</li> <li>●コレクション研究を推進し成果をわかりやすく示す展示として、「この1点を見てほしい。」を行う。また、「この1点」の拡大版とも言える「星の瞬間」展を開催するため、各学芸員が対象作家・作品の調査研究を深める。</li> <li>●リニューアルに向けて、他館のリニューアル事例の情報収集や視察を進めるとともに、実現のためのロードマップ（行程表）をブラッシュアップする。</li> <li>●新しい展示用具や照明機器、設備等について情報収集を行い、見やすさや作品保全機能、展示効果向上のための研究を進める。</li> <li>●新任学芸員を対象とした研修を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●近美コレクション展をはじめ、特別展や次年度の企画展について調査研究を進めた。また収集作品についても、新収蔵の作品を中心に調査研究を行い、「新収蔵品展」で作品解説を付して展示した。</li> <li>●「この1点を見てほしい。」を2回開催した。「星の瞬間」展では、各学芸員が出品作品とその周辺の調査・研究を進め、図録と展示解説にて研究成果を発表した。</li> <li>●リニューアルに向けて滋賀・大阪・白老の博物館施設を視察する等、情報収集を行うとともに、ロードマップの内容・扱いを整理した。</li> <li>●新しいLED照明についての情報収集を行い、新収蔵作品展のため専用カラーフィルターを購入した。</li> <li>●新任学芸員を対象とした研修を5月に実施した。</li> </ul> |

#### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目     | 評価指標                      | 目標値の設定 [PLAN] |         |       | 評価 [CHECK] |           |       |                        |  | 今後の対応方向 [ACTION] |   |
|----------|---------------------------|---------------|---------|-------|------------|-----------|-------|------------------------|--|------------------|---|
|          |                           | 前年度実績         | 目標値 (a) |       | 実績値 (b)    | 達成率 (b/a) | 指標の判定 | 項目評価(※定量指標がないため最高評価はb) |  |                  | 総合評価  |
|          |                           |               | 設定の考え方  | 成果・課題 |            |           |       |                        |  |                  |   |
| 調査・研究の推進 | 学芸員による調査・研究の報告や発表の状況 [定性] | -             | -       | -     | -          | -         | ①     | b                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>【成果】</li> <li>●各学芸員が調査・研究を進めた。「この一点を見てほしい。」「高山寺展」「三の丸尚蔵館展」「星の瞬間」等では、展示解説や図録等においてその成果を発表した。また、次年度以降の事業に向けても各学芸員が調査・研究に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>●新任学芸員研修を実施し、道教委の学芸員としての基本的な心構えや専門知識・技能を習得する機会を設けた。</li> </ul> | B                | <ul style="list-style-type: none"> <li>【調査・研究の推進】</li> <li>●展覧会や所蔵品に関する調査研究を進め、その成果を展示や紀要を通して引き続き発表していく。</li> </ul> |
|          | 学芸員の研修等の状況 [定性]           | -             | -       | -     | -          | -         | ①     |                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>【課題】</li> <li>●遠方で開催されるオンラインではない学芸員研修への参加機会の充実を図ることが必要</li> </ul>   |                  |   |

## R6年度 美術館評価調書

### E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

近代美術館

#### 【基本的運営方針】

地域の文化活動や学校の教育活動と連携・協働することで、美術に対する関心を高め、美術館の利用促進を図り、地域のアートの活性化に寄与します。

#### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目            | 事業実施計画 [PLAN]   | 事業実施状況 [DO]   |
|-----------------|---|---|
| 多様な機関との連携・協力    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●北海道美術館協会及びボランティアとの取り組みを継続し、図録や美術関連グッズの販売、ギャラリー・ツアー、アート・レファレンス・サービス(ARS)、資料整理、美術講座など、幅広い活動に協力する。</li> <li>●北海道の中核的な美術館として、北海道美術館学芸員研究協議会と協力して道内美術館のネットワークを強化するとともに、学芸員の相互研鑽等に協力する。</li> <li>●北海道内の多様な美術館等が相互に連携し、本道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道 (AGH)」事業として、苫小牧市美術博物館のコレクション展の実施、AGH月間における広報、来年度以降の展覧会の企画、ネットワーク参加館への連携協力等を行う。</li> <li>●CAI現代美術研究所/CAI03及び現代美術作家と連携し、「星の瞬間」展を実施する。</li> <li>●500m美術館や道銀文化財団に協力し、美術の振興および地域作家の顕彰に寄与する。</li> <li>●札幌交響楽団等に協力し、美術ファン以外にもコレクションへの関心を高める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●協会及びボランティアの日常的な活動に協力、助言、研修を行い、各部の養成研修においても多くの講座等を担った。ボランティアが使用するプリンターや掲示プレートの整備、「アート・クラブ」「ジュニア・アート・クラブ」等の事業内容や方法について助言、会場提供等で協力した。</li> <li>●第33回北海道美術館学芸員研究協議会の開催にあたり運営および会場の提供等に協力した。</li> <li>●「アートギャラリー北海道 (AGH)」事業として苫小牧市美術博物館のコレクションによる「港の今昔」展を近美コレクション展と併せて開催し、7,489名の来場者を迎えた。またAGH月間では周年を迎えた連携館紹介の特設コーナーを設けるとSNSでも集中的に広報し、活動の周知に努めた。</li> <li>●「星の瞬間」展では、CAI現代美術研究所/CAI03及び現代美術作家と連携して北海道美術の紹介を行った。</li> <li>●500m美術館専門委員会や道銀文化財団に協力し、地域の芸術文化振興および地域作家の顕彰に寄与した。</li> <li>●札幌交響楽団定期演奏会に際し、当館のコレクションからプログラムに掲載する画像を提供し、学芸員が作品解説を執筆した。</li> <li>●貸館事業として北海道高等学校文化連盟、北海道書道連盟等5団体に当館施設を貸与し、その活動に協力した。</li> </ul> |
| 学校等の教育機関との連携・支援 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主研修や職場体験等、学校等の要望に応じた教育プログラムを提供する。</li> <li>●鑑賞学習支援ツールについてチラシ等で周知し、貸出を行う。</li> <li>●「オンラインアート教室」では多様なプログラムを用意するとともに、学校からの要望に応じて授業内容を構成し、効果的な鑑賞学習を実施する。</li> <li>●道立図書館と連携し、特別展ごとに関連図書の閲覧コーナーを設け、「もっと知りたい」という来館者の思いに応える。</li> <li>●キャンパスパートナーシップについては、本庁とも連携しながら各学校の状況の把握に努め、参加を働きかける。</li> <li>●学校教育における美術館活用を促すため、指導者研修を実施する。</li> <li>●道内外の大学からの要請に応じ、博物館実習(館園実習、見学実習)を実施する。</li> <li>●「学芸員インターンシップ(実務研修)」に基づき、学芸業務に携わる実務研修生を広く募集し受け入れる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主研修・職場体験を随時受け入れた。年度当初に利用案内チラシ(お役立ちシート)を配布し、利用を促進した。</li> <li>●鑑賞学習支援ツールは15件の貸出に対応した。またチラシ等で利用方法を周知したほか、指導者研修でも実用例を紹介した。</li> <li>●「オンラインアート教室」は8校に対し、各校・各学級の実態、教員の要望に応じた授業を計10件行った。</li> <li>●「琳派×アニメ展」「高山寺展」「三の丸尚蔵館展」「星の瞬間」展の会期中、道立図書館の関連図書閲覧コーナーを設け来館者の閲覧に供した。</li> <li>●夏季と冬季の学校休業期間中に指導者研修を実施した。夏季は5名、冬季は16名の参加者があった。</li> <li>●博物館実習について、館園実習では3名の大学生を、見学実習では2校を受け入れた。</li> <li>●昨年度に引き続き、北海道札幌北陵高等学校放送局の協力のもと、「ポケット学芸員」電子ガイド・コンテンツ8件を新たに制作・公開した。</li> <li>●「学芸員インターンシップ制度」に基づき、実務研修生1名を2か月間受け入れた。</li> </ul>   |

#### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目            | 評価指標                       | 目標値の設定 [PLAN] |         |   |         |           | 評価 [CHECK] |       |   | 今後の対応方向 [ACTION] |   |
|-----------------|----------------------------|---------------|---------|---|---------|-----------|------------|-------|---|------------------|---|
|                 |                            | 前年度実績         | 目標値 (a) |   | 実績値 (b) | 達成率 (b/a) | 指標の判定      | 項目評価  |   |                  |   |
|                 |                            |               | 設定の考え方  |   |         |           |            | 成果・課題 | 総合評価  |                  |   |
| 多様な機関との連携・協力    | 地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性] | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          | b     | 【成果】<br>●ボランティアの活動支援をはじめ、貸館事業への対応等、年間を通して多様な団体との連携を継続的に行った。「星の瞬間」展の実施に際しては、CAI現代研究所/CAI03及び現代美術作家と連携し、地域の芸術文化の活性化に貢献した。<br><br>【課題】<br>●北海道美術館協会やさまざまな団体と連携・協力を図っていく必要がある。  | B                | 【多様な機関との連携・協力】<br>●引き続き様々な機会を捉えて多様な機関との連携を探っていく。<br><br>【学校等の教育機関との連携・支援】<br>●学校における鑑賞授業等の支援のため、引き続き広報や研修を通じて美術館の利活用について周知し、必要な協力を行う。<br>●オンラインアート教室は、人員体制や授業形態の見直し等により、持続可能な実施方法を検討する。 |
|                 | 企業や団体等と連携したPR活動 [定性]       | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          |       |   |                  |   |
|                 | 道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]      | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          |       |   |                  |   |
|                 | ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]      | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          |       |   |                  |   |
| 学校等の教育機関との連携・支援 | 学校教育と連携した取組の状況 [定性]        | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          | c     | 【成果】<br>●オンラインアート教室実施に加え、小中高校の自主研修等を受け入れ、学校の鑑賞教育や総合的な学習の時間における課題学習を支援した。<br>●教員研修について、冬季より教員が申し込みやすいフォームからの申請を可能にしたこと等で、参加者数が夏季の3倍に増加した。<br>【課題】<br>●オンラインアート教室は、実施希望が増加傾向にあることを踏まえて、プログラム内容や実施体制の効率化、継続のための方策が必要である。 | B                | 【多様な機関との連携・協力】<br>●引き続き様々な機会を捉えて多様な機関との連携を探っていく。<br><br>【学校等の教育機関との連携・支援】<br>●学校における鑑賞授業等の支援のため、引き続き広報や研修を通じて美術館の利活用について周知し、必要な協力を行う。<br>●オンラインアート教室は、人員体制や授業形態の見直し等により、持続可能な実施方法を検討する。 |
|                 | 児童生徒向け鑑賞教室(オンラインを含む)の実施件数  | 9件            | 7件      | 文化財博物館課作成の同事業実施要項「実施校数の目安」による           | 10件     | 142.9%    | ①          |       |   |                  |   |
|                 | キャンパスパートナーシップのメンバー校数       | 0校            | 1校      | R4実績と同数(近コレ開催日数 R4:137日、R5:60日、R6:246日) | 0校      | 0.0%      | ④          |       |   |                  |   |
|                 | 教員を対象とした研修の実施状況 [定性]       | -             | -       | -                                       | -       | -         | ①          |       |   |                  |   |

## R6年度 美術館評価調書

### F 安全で快適な滞在環境の提供

近代美術館

#### 【基本的運営方針】

近代美術館は施設・設備の老朽化が進んでおり、大規模な修繕や工事の実施が難しい状況ではあるものの、職員一人ひとりが、常に、来館される方々の目線に立ち、安全・安心に展覧会を観覧いただき、美術館で充実した時間を過ごしてもらうことが出来るよう、最大限知恵を絞り、工夫を重ねながら、くつろぎの空間としての魅力の向上を図っていきます。

#### 【事業実施計画・事業実施状況】

| 取組項目       | 事業実施計画 [PLAN]   | 事業実施状況 [DO]  |
|------------|---|--|
| 施設の適切な維持管理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●職員一人ひとりが施設・設備の状況を把握し、日常の点検を意識することが出来るよう「点検にあたっての留意事項」を作成、共有することで、施設等の不具合、故障の早期発見、必要な補修の迅速化につなげる。</li> <li>●美術館の前庭が、来館者にとって憩いの空間であることを意識し、安全・安心に滞在してもらうため、落枝の可能性のある樹木の剪定、樹高の調整をするなど、自然環境を活かしながら、植栽の適切な維持管理に努める。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●職員の日常的な点検や施設課技術職員との点検、業者による保守点検結果の把握により施設・設備の不具合や故障の早期発見・早期対応に努めるとともに、来館者アンケートの結果を踏まえた館内外の環境改善を図った。</li> <li>●委託業者と連携し、落下の危険を有する樹木の枝を伐採したほか、注意喚起のための掲示を行うなど、植栽の適切な維持・管理に努めた。</li> </ul>  |
| 施設の快適性の向上  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●来館者アンケートにおいて、より多くの方々から意見等を聴取できるよう、アンケートの聴取方法や内容を工夫するとともに、アンケートの回答内容を早期に共有、分析し、美術館の運営改善に資することができるよう取り組む。</li> <li>●また、アンケートに記載された意見に対する美術館の回答を掲示することで、当館の活動について、より理解いただくよう努める。</li> <li>●ミュージアムショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協議した取組や情報発信について検討・実施する。</li> <li>●現在、カフェスペースは出店者がいない状況ではあるが、来館者の増加やホスピタリティー向上の観点から、短期間での出店など活用方法を検討していく。</li> <li>●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●より多くの来館者からアンケートの回答が得られるよう、新たにアンケート回収箱の設置数を増やすとともに設置箇所が来館者の目に留まるよう大きく表示するほか、来館者へのアンケート用紙の直接配布やQRコードによるウェブ回答を可能とするなどの工夫を凝らした。また、回収されたアンケート結果を早期に職員で共有し、必要な対応を行うとともに、館内掲示で対応内容を公表した。</li> <li>●ミュージアムショップの魅力を高めるため、美術館限定のオリジナル商品を販売した。</li> <li>●新たに出店したカフェ事業者と協働して、展覧会と連動した割引サービスや小展示を行ったほか、芸術週間には、カフェスペースで近美のコレクションを展示した。</li> <li>●キャッシュレスサービスの運用拡大に向けて、展覧会共催事業者であるマスコミと協議を行った。</li> </ul> |

#### 【目標値の設定・評価】

| 取組項目       | 評価指標                                 | 目標値の設定 [PLAN] |         |                                 | 評価 [CHECK] |           |       |      |  | 今後の対応方向 [ACTION] |   |
|------------|--------------------------------------|---------------|---------|---------------------------------|------------|-----------|-------|------|--|------------------|---|
|            |                                      | 前年度実績         | 目標値 (a) |                                 | 実績値 (b)    | 達成率 (b/a) | 指標の判定 | 項目評価 | 総合評価   |                  |   |
|            |                                      |               | 設定の考え方  |                                 |            |           |       |      |  |                  | 成果・課題   |
| 施設の適切な維持管理 | 施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]            | —             | —       | —                               | —          | —         | ①     | b    | <b>【成果】</b><br>●施設の安全確保に向け、日常点検等により故障箇所等の早期発見に努め、修繕等の対応を行うほか、アンケート結果を踏まえて鑑賞環境の改善を図るなどして、概ね適切に維持・管理を行った。<br><b>【課題】</b><br>●施設設備の点検結果を踏まえた不具合や故障の早期発見・早期対応につなげていく必要がある。   | B                | <b>【施設の適切な維持管理】</b><br>●老朽化が進む施設・設備の適切な維持管理のため、引き続き点検の充実等により、不具合や故障の早期発見・早期対応につなげていく。   |
|            | 誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]             | —             | —       | —                               | —          | —         | ①     |      |  |                  |   |
| 施設の快適性の向上  | 鑑賞環境に対する満足度                          | 85.9%         | 85.9%   | 来館者アンケート「施設内外の環境への満足度」過去5年間の最高値 | 83.5%      | 97.2%     | ②     | b    | <b>【成果】</b><br>●ミュージアムショップでの美術館限定品の販売のほか、新たなカフェスペース出店事業者と連携し、展覧会と連動した割引サービスやカフェスペースでの展示を行うなどの取組により、来館する価値の向上を図るとともに、来館者のホスピタリティー向上を図った。<br><b>【課題】</b><br>●来館者アンケートを踏まえた館内外の環境改善を図る必要がある。<br>●ミュージアムショップやカフェスペースの事業者と連携した取組をより多くの来館者に認知してもらい、利用してもらうことにより満足度の向上につなげていく必要がある。<br>●実行委員会展でのキャッシュレスサービスの導入について、機器導入経費や手数料の負担等から事業者が難色を示し、導入に至っていない。 | B                | <b>【施設の快適性の向上】</b><br>●アンケートの回収率向上に努め、アンケート結果を館内外の環境改善につなげていく。<br>●来館者の満足度向上に向けミュージアムショップやカフェスペースの事業者と連携した取組を実施し、周知を積極的に行う。<br>●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。 |
|            | レストラン・喫茶に対する満足度                      | 57.5%         | 62.9%   | 来館者アンケートによる過去5年間の最高値            | 61.1%      | 97.1%     | ②     |      |  |                  |   |
|            | ミュージアムショップに対する満足度                    | 68.5%         | 69.8%   | 来館者アンケートによる過去5年間の最高値            | 70.9%      | 101.6%    | ①     |      |  |                  |   |
|            | ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性] | —             | —       | —                               | —          | —         | ①     |      |  |                  |   |
|            | 館内スタッフの対応に対する利用者満足度                  | 81.5%         | 82.9%   | 来館者アンケートによる過去5年間の最高値            | 80.7%      | 97.3%     | ②     |      |  |                  |   |
|            | ホスピタリティー向上に向けた取組の状況 [定性]             | —             | —       | —                               | —          | —         | ①     |      |  |                  |   |